

自己評価 (ナノハナユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「ゆとり」という事業所理念を掲げ、日々意識しながら、実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	・地域の夏祭り、敬老会等の際は必ず声をかけていただくので、その際は積極的に参加させていただいている。又、施設行事等の際には地域の方に声をかけさせていただき、民生委員、地域の子供達が参加してくださっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方々の個々の来訪によつての相談等には積極的に応じている。今後は運営推進会議の中で情報発信ができて、地域に貢献していけたらよいなと思う。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・H22年9月に実施することができ、2、3ヶ月おきにテーマを決め、実施できるようになっている。そこでの意見を毎月の業務ミーティングで全スタッフへ報告をしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合わす機会がある為、何かと相談にのって頂いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設として身体拘束をしないという基本方針を全スタッフに理解していただいている。 ・千葉市主催の身体拘束・高齢者虐待の研修に参加していただいたスタッフを中心に定期的に全スタッフ対象にした勉強会を開き、知識、理解の向上に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者は全スタッフが定期的に全員集まれる場、個別面談等の機会を設け、不安、ストレス、悩み等を話せる場を作っている。 ・ご家族、職員との関係作りの重要性を職員はしっかり理解をしていただき、良好な関係作りを意識している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に必要な勉強会等には参加できている。 必要性の有無に関して、地域包括支援センターとも相談援助をうけることはできている。 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 一度説明したら終わりということではなく、何度でも十分な説明ができるよう努めている。 		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> H22年～介護相談員の方々の受入れができるようになり、定期的に意見、要望等を管理者、職員へ表せる機会ができるようになってきたと思われる。 施設として年2回ご家族向けのアンケートを配布し、その際に要望等を記載していただけるようにしている。 		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の業務ミーティング、個別面談等で意見を聞き、改善できる所は早急に改善できるように努めている。 		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職場は管理者が作るのではなく、現場の職員が作るものとしている為、職員の個性、経験による実践を出せる場でもあるので、経験者、そうでない新人職員、共に創意工夫して働いていただいている。 介護処遇改善交付金を有効活用させていただき、手当て等の幅は少しは広くできている。 人員増員をすることによっての労働時間の短縮が急務である。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の業務ミーティングの中で研修年間計画を建て、職員研修を実施している。 外部研修等にも積極的に参加していただいている。 		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市グループホーム連絡会等、に参加させていただいていることで、交流の場は設けられている。 近隣グループホームとの職員交換研修会ができていない為、是非実現したい。 		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご利用者依頼から、ご入居までの間にも施設側から何度もご本人とお会いするようにして、入居までの間の不安や入居してからのご要望を聞き入れ、施設側での対応範囲を検討し、安心して受け入れられるように努めている。(見学も何度かしていただく)		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設側からサービス導入前の面談等で、三者の関係性(ご利用者様、ご家族様、施設側)の重要性をご説明させていただき、ご家族の方も遠慮なく相談、悩み事を話せる関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼があった際には、現在の生活状況、サービス内容、何故グループホームの利用を希望されたのか？ご本人は納得されているのか？身体的状況にもより、本当にグループホームでよいのか？その他のその方に合ったサービスがあればご紹介、相談には応じるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に逆の立場を考え、自分がされて嫌なことではないということを確認し、職員も生活環境の一部なんだということをしっかり把握していただいた上で、尊重、尊厳を重要視した関係作りを築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族にはご入居前にご本人、ご家族、施設職員とのネットワークをしっかり作っていきましょう。ということをご説明しており、ご家族には極力面会に来ていただき、関わりを断ち切らないようにしている。 ・外泊、外出も自由とし、ご家族の宿泊も可能としている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の方々以外の面会(友人、親族)等も多々ある。 ・ご家族の協力の元、馴染みの場所等への外出もされている。 ・年賀状、お手紙と定期的に出されている方もいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご入居様を孤立させない様、広間に集まっていたり、体操、レク、洗濯、掃除等共同でしていただくことで交流の場を自然にもてるようにしている。関わりが難しい方でも、職員がパイプ役となり、関わりをもっといただけるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去をされた後も、その後の生活に不安等を感じているご本人、ご家族様からのご相談も積極的に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・3ヶ月に一度個別カンファレンスを行い、ご本人の意向を確認しながら、実施している。確認が困難な場合はご家族にも事前に確認をし、把握するよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居される前、入居されてからも常々情報収集に努め、馴染みの暮らしに近い生活が送れるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別記録で、日々の生活状況がわかるようにし、全職員間でも共有できるものになっている。 ・月1度の業務ミーティングでも、現状報告、現状確認をし、情報を共有するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画書の作成前には、モニタリング、再アセスメントを実施し、ご本人、ご家族の意見、要望もお伺いした後に作成するようにしている。作成後にはご本人、ご家族にも確認をしていただき、その後スタッフ全体で把握、実践に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録の内容には、その時に行った行動、言動に対し、そこに関わった方がどんな対応をとったのか？その後の様子まで、極力詳細に記入するようにしている。 ・ご家族への情報開示、職員間での共有もできている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の要望、ご家族の要望等に関しても相談、援助は柔軟に対応している。 例(通院介助、公的手続き、買物、ドライブetc)		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣の方々、スーパー、薬局等の店員さん達にもだいがグループホームの認知をしていただいており、買物の際の支払いなど親切丁寧に対応していただいている。 ・民生委員の方々も時折、施設を訪問していただき、地域の行事等(納涼祭、敬老会等)にお誘いいただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、月2回の往診をしていただき、全体の健康管理をしていただいている。ご本人、ご家族からもご理解をいただいた上で、ご利用していただいている。他医療機関を受診した方がよい方などは、協力医療機関の先生より、紹介等をしていただき、受診をしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設看護職員は、入居者全体の体調管理、服薬管理、協力医療機関との連絡調整に努め、24時間オンコール体制で、入居者全員が適切な受診ができるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降も、ご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させていただき、その際は主治医の先生とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。ソーシャルワーカーとの情報交換も密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に事前指定書として、書面の取り交わしをさせていただいている。施設として、指針をしっかりと説明し、理解をいただいている。その内容を協力医療機関にも報告をし、情報の共有を図っている。書面の取り交わしは何度も出来るものとし、ご本人、ご家族の意向を尊重できるよう、医療機関、施設側も交えて、何度も話し合いをするようにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員全体、上級救命救急の講習を受け、知識、技術を身につけるよう支援している。定期的に急変時に備えた対応を職員全体で確認している。職員も慌てずに対応ができるよう、フローチャートも作成している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、消防署立会いで消防訓練は出来ている。 ・運営推進会議を通して、地域との協力体制を構築させていきたい。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の入居者様には、人生の先輩という認識をもって関わられるように意識している。 ・同姓介助を望まれる方々にも柔軟な対応をとっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・主体性をもった関わりの中で、わかりやすい説明、自己決定をしやすい関わりを意識し、お断りや否定することのないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は業務優先になることなく、「ゆとり」をもって柔軟な対応がとれるよう意識しながら、対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人、ご家族の意向を取り入れ、ご本人の好みのものを使用させていただくようにしている。 ・希望があれば、月1回の訪問理美容サービスを活用していただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・カロリー制限の方も多いため、調理は賄いがするようにしている。準備、後片付け等は職員と一緒にさせてもらっている。昼食時は職員も一緒に食事を摂っている。 ・定期的に外食行事を行い、楽しみになるような支援を行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個別に食事摂取量、水分摂取量等をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・入居者様には毎食後、口腔ケアの実施を促している。 ・週1回、歯科衛生士の来訪もあり、口腔状態の把握は出来ている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・基本的に日中、夜間共ご本人の意思を尊重し、トイレに行かれる方は、トイレでの排泄を促している。(体調等の変化により、やむを得ず、オムツ使用になったりする場合もあるが、その際はご本人、ご家族にも了承をいただいてから実施するようにしている。)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・大半の入居者様は下剤の内服をされている為、医師等と相談しながら、排便コントロールができるようにしている。 ・水分摂取も積極的に促し、食物繊維類もしっかり摂るように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日、時間帯は基本的に決めず、個々の要望に沿って入浴日を決めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人一人の生活習慣(休息、睡眠パターン)を把握し、昼夜逆転等の生活リズムが変わらない様、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者全員分の服薬に関しての内容を一覧にし、職員が見やすいようにしている。 ・職員による、誤薬等がないようダブルチェックをして、防止に努めている。 ・職員は異常の早期発見に努め、何かあった際には主治医への連絡体制をしっかりとれるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の入居者様には、役割をもって過ごしていただくよう支援している。 ・行事レク等を豊富に計画をし、気分転換を図っていただけるようにしている。(計画の作成には、入居者様の意見、要望を取り入れるようにしている。)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その日の希望に沿って、外出できるようにしている。 ・ご家族の方にもその日、その時でご都合のつく時など、入居者様と一緒に外出をしていただいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在18名中、3名の方は本人でお金を管理していただいている。15名の方々は施設の方で管理させていただいている状況だが、必要な際には、買物等に行き、ご自分で支払いをしていただいたり、銀行、郵便局で現金の入金、振込み、出し入れ等もしていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・施設として、電話の使用は自由としている。個々に携帯電話等お持ちの方々は個々に使用されている。 ・年賀状、手紙のやりとりも個々にされたい方々はできるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各共用スペースも広々しており、トイレ、浴室に関しては使用後、必ず消毒を行い、次に使用される方も不快なく利用できます。 ・廊下も車イス同士、余裕をもってすれちがうこともでき、歩行訓練としても活用しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースには、畳のスペース、ソファに座りながら、テレビが見れるスペース、長い廊下には畳いすを準備している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室7.5畳のスペース、電気、エアコン、テレビ端子を標準装備とし、ご家族、ご入居者様同士も余裕をもって過ごせるスペースは確保している。 ・居室の物も基本的に馴染みの物を持参していただいて、居心地良く過ごせるよう配慮させていただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共有スペースには、手すり、呼出装置の設置もしており、自立した生活を送れるようにはなっている。 ・入居者様の中で、個々に必要と思われる方々は、福祉用具の活用もすすめ、安全面でも配慮させていただいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所